

八万の法蔵章（五帖第二通）

それ、八万の法蔵を^{はちまん ほうぞう}しるというとも、後世^{ごせ}をしらざる人を愚者^{ぐしや}とす、たと^い一文不知^{いちもんふち}の尼入道^{あまにゅうどう}なりというとも、後世^{ごせ}をしるを智者^{ちしや}とすといえり、しかれば当流^{とうりゅう}の^こころは、あながちにも^もら^もら^もの^{しやうぎやう}聖教をよみ、ものをしりたりというとも、一念^{いちねん}の信心^{しんじん}のいわれをしらざる人は、いたずらごと^{ひと}なりとするべし、されば、聖人の御^{おん}ことばにも、弥陀^{みだ}の本願^{ほんがん}を信ぜずしては、ふつとたすかるといふことあるべからずと仰^{おほ}せられたり、このゆえに^にい^かなる^によ^にん^に女人^{にょにん}なりというとも、も^もら^もら^もの^{しやうぎやう}雜行をすて、一念^{いちねん}に^によ^にん^に彌陀^{みだ}如來^{にょらい}今度^{こんど}の後生^{ごしやう}たすけたま^まえと、ふか^{ひと}くたのみ^もう^もさん人は、十人も百人も、みなとも^{うたがい}に^によ^にん^に彌陀^{みだ}の報土^{ほうど}に^によ^にん^に往生^{おうじやう}すべきこと、さらさら、疑あるべからざるも

のなり、

あなかしこ あなかしこ

八万の法蔵章の大意

釈尊がお説きになった教えをすべて知っているとしても、後世の
ことを知らないものは愚者であり、たとえ文字一つ知らないとして
も、浄土に往生するいわれを知るものは、智者であるといえます。
ですから、浄土真宗では、たくさんの聖教を読んでいろいろなこと
を知っていても、信心一つでたすがるといういわれを知らなければ、
むなしいことだと思わなければなりません。

親鸞聖人のお言葉にも、「どんな人も、阿弥陀如来の本願を信じなければ、決してたすかることはない」とあります。ですから、どういう人であらうと、自力にたよることをやめて、おたすけくださいと二心なく深く阿弥陀如来を信じおまかせするならば、十人は十人、百人は百人、みな浄土に往生できることは、まったく疑いありません。